

平成15年度男女共同参画フォーラム in 大分  
～変わる 変える 一人ひとりが輝く社会～

日時：平成15年8月5日(火)  
場所：大分全日空ホテル オアシスタワー  
内容：第2分科会 農山漁村における男女共同参画  
～働く女性のチャレンジ支援～  
コーディネーター：  
古賀 倫嗣氏(熊本大学教授)  
パネリスト：  
片山 信浩氏(農林水産省経営局女性・高齢者対策推進室長)  
真鍋 ハマ子氏(美濃崎水産加工グループ代表)  
河津 静子氏(天瀬町生活研究グループ)

参加者：約190名

水産物・農産物の各加工直売所を営む二人のパネリストの自らの体験に基づいたチャレンジ事例の紹介と、農山漁村における女性の社会的、経済的チャレンジの現状、問題点、国、県、市町村等の支援制度についての説明がありました。



参加者の声：

- パネリストの実践に基づいた話、バイタリティあふれる行動、チャレンジに感銘を受けた。

担当者の声：

- 会場の皆さんとも活発に意見交換が行われ、とても内容の詰まったパネルディスカッションとなりました。

Challenge  
Challenge



平成15年度男女共同参画フォーラム in ひょうご  
～一人ひとりが、いま大切な存在であるために～

日時：平成15年9月10日(水)  
場所：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場  
内容：第1分科会 女性が活躍できる場を広げよう！  
～上へのチャレンジ、横へのチャレンジ、再チャレンジ～  
コーディネーター：  
尼川 洋子氏(国立女性教育会館客員研究員)  
パネリスト：  
堀井 美千代氏(兵庫県経営者協会女性産業人懇話会代表幹事)  
松浦 一枝氏(株アリーテ代表)  
森 綾子氏(宝塚NPOセンター事務局長)  
吉田 千春氏(加西市農業委員)

参加者：約120名

女性が社会のさまざまな分野に、自分らしくチャレンジし、参画していくためには、何が必要なのでしょう。さまざまな分野で道を切り開いてきたパネリストを迎え、女性のエンパワメントや、女性の活躍を一層進めていくための方策について、ご自身の体験に基づいた活発な議論が交わされました。女性のチャレンジに必要なことについては、「どんな仕事でもプロに徹し、チャンスを活かせる自分であること」(堀井さん)、「人にどう思われるかではなく、自分で選び、決めること」(松浦さん)との意見をいただきました。また、チャレンジをとおして「自分自身が変わったことは、いつの間にか、心(精神)も経済も自立していたこと」(森さん)、「女性農業委員の誕生が農村女性の意識改革につながれば」(吉田さん)との発言が続きました。

最後に、尼川さんからの「女性の力は埋蔵文化財。チャレンジの一步は自分の力に気づき、自信を持つこと。一人が頑張れば、その一步が女性全体の前進になる。女性たちが自分たちの思いで、自分たちのやり方をつくっていくこと。女性たちが自分らしくすることで、男性たちも変わっていく」とのエールに、会場を埋め尽くした女性たちの目は一段と輝きを増していました。



会場からの声：

- チャンスは逃さず、失敗はおそれず、一人ひとりが頑張れば社会を動かせると感じた。
- 時代の流れや自分の状況を把握して、目先のことだけでなく全体のことをみて、横のつながりを持ちながら、女性としての考えを発揮していきたい。

**平成15年度男女共同参画フォーラム in みえ**  
 ~ひとりひとりのチャレンジ! 支える、つながる、みえの男女(ひと)~

日時：平成15年10月3日(金)、4日(土)  
 場所：三重県総合文化センター  
 多目的ホール 他  
 内容：対談「女性のチャレンジ支援策の課題」  
 八代 尚宏氏(社団法人日本経済研究センター理事長、  
 男女共同参画会議専門委員)  
 竹信 三恵子氏(朝日新聞記者、男女共同参画会議  
 専門委員)  
**第1分科会** 「どう進める? 政策・方針決定過程へ  
 の女性の参画の拡大 ~思いから実践へ あらゆる  
 意思決定の場にチャレンジ! ~」  
**第2分科会** 男女の均等な機会と待遇の確保の実  
 現に向けて ~働くひとへ ここからチャレンジ! ~」  
**第3分科会** 暴力を許さない社会へ ひとりひとりの  
 チャレンジ! ~暴力の連鎖を断ち切るために~」  
**第4分科会** 農山漁村における女性のチャレンジ!  
 ~ともに築く住みやすい農山漁村社会の形成に向  
 けて~」

参加者：約500名  
 .....

対談に先立って行われた八代さんの基調講演に基づいて、  
 竹信さんのお話をいただいた後、現在、女性が置かれてい  
 る立場や状況について、八代さんと活発に意見交換がなされ、  
 事例の中から様々な課題が浮き彫りになりました。

分科会では、4つのテーマについて、パネリストそれぞれの  
 立場から現状、課題、今後の取り組みについて、お話いた  
 されました。



**参加者の声：**

- 女性も自分の能力に応じた仕事ができたら最高です。  
 (50歳代・女性)
- 今の日本が男性にとっても問題の多い社会であることを  
 初めて感じました。(20歳代・男性)
- 現在早急に考えていかなければならない問題提起が  
 され、あらためて男女共同参画について、いろいろな  
 角度から考えることができ、有意義であった。(50歳  
 代・女性)

**担当者の声：**

- 2日間で県内外から約900名(対談・分科会で500  
 名)の方に参加していただき大盛況でした。参加され  
 た方々にとっても、職員にとっても男女共同参画、女  
 性のチャレンジ支援について考えることができる有意  
 義な内容でした。

**平成15年度男女共同参画フォーラム in あおもり**  
 ~自分らしく 支え合ってつくる あったか社会~

日時：平成15年10月23日(木)、29日(水)、  
 11月10日(月)  
 場所：ば・る・るプラザ青森  
 内容：**基調講演** 「チャレンジ! わたしも変わる 未来も  
 変わる」  
 岩男 壽美子氏(武蔵工業大学教授・慶応義塾大学  
 名誉教授・男女共同参画会議議員)  
**第3分科会** 女性のチャレンジを支援する ~能力  
 と個性を活かせる社会を目差して~」  
 参加者：約500名  
 .....

**[基調講演の概要]**

国では、男女共同参画社会の構築に向けて、女性のため  
 のチャレンジ支援策を進めています。これによって、より明る  
 い未来が実現できるはずと考えています。

いつリストラにあうかも知れない今日、安心して暮らすため  
 には一家に複数の財布を持つことは非常に大事であり、女性  
 の参画なしに少子化日本は生き延びることができません。天  
 然資源が少ない我が国は、人的資源には恵まれており、これ  
 を活かさない手はないのです。そこで、男女共同参画会議基  
 本問題専門調査会で「3つのチャレンジ支援策」について次  
 のような提言がなされました。

「上」へのチャレンジ

目標をより高いところに設定し、チャレンジすること。

「横」へのチャレンジ

今まで経験していない新しい分野に一步踏み出すこと。

「再」チャレンジ

出産等の事情で仕事を中断した方が現役に復帰すること。

この中で、「上」へのチャレンジ支援策の一つ、ポジティブ・  
 アクション(積極的改善措置)については「立法措置を視野に  
 入れて検討」という非常に重い一文が入りました。

そのほか、千代田区では入札参加登録の審査項目におい  
 て育児休業を積極的に進めている場合には加点したり、広島  
 市では補助金の交付において男女共同参画の規定を設けた  
 りと公契約と補助金における新たな取組も行われています。

特にチャレンジの問題

では、とにかく誰でも、  
 何でも、一步踏み出す  
 ことから出発しなければ、  
 この世の中は動きませ  
 せん。他人事ではなく私  
 たち一人ひとりのことだ  
 と思って、是非みなさん  
 にチャレンジしていただ  
 きたいものです。



**参加者の声：**

- 自分なりに考えたり、思っていることが、なお一層明確  
 にすることができた。
- 時間が短く、もっとお話を聴きたかった。
- 「一步前に入る勇気があれば、きっと何かが始まる」と  
 いう気持ちになった。

**担当者の声：**

- フォーラム当日は男性の参加者が予想以上に多く、ま  
 たこれらの方々から「わかりやすい内容だった」との感  
 想を受け、意識改革の一助になったと感じています。

平成15年度男女共同参画フォーラム in さいたま  
～築こう 一人ひとりが輝く彩の国～

日時：平成16年2月5日(木) 15:00～17:00  
場所：With You さいたま(男女共同参画推進センター)  
内容：第3分科会 「女性のチャレンジ支援」

コーディネーター：  
広岡守穂氏(中央大学教授)  
パネリスト：  
坂本純子氏(新座子育てネットワーク)  
尾崎千恵子氏(さいたま農村女性アドバイザー)  
皆見知佳氏(中央大学法学部)  
宮崎久実氏(いきいきネットはら事務局長)

参加者：約170名(フォーラム全体で1,460名)  
.....

コーディネーターの広岡守穂先生から、女性がチャレンジする際、3つの方法がある、一つは学習が発展して活動や起業につながる場合、2つ目は行政とNPOがパートナーシップを組んで、まちおこしや子育て支援などで起業する場合、3つ目は企業とNPOがパートナーシップを組む場合などについて話がありました。

事例報告として坂本純子さんから、地域で子育てを応援するNPOを立ち上げ2003年には法人化して、市の子育て支援センターの運営を受託していることなどについて、尾崎千恵子さんからは、生産者と消費者とのネットワークを充実させ、世界の農家の女性たちと手をつなぎ「21世紀の地球を耕す女性たち」を合言葉にがんばっていることについて、報告がありました。中央大学の皆見知佳さんと古沢稔子さんからは、新潟県 鄞岐沙羅交流サロン「穂！人」の活動を通して住民、企業、行政が協力し合ってまちおこしをしている実践報告があり、宮崎久実さんからは、NPOと企業や行政とのパートナーシップについての実践例、「パートナーシップ・サポートセンターin名古屋」と飛んでけ！車いすの会in北海道」について報告がされました。

第3分科会の会場は170人を超す参加者があり「女性のチャレンジ支援」について関心の高さがうかがえました。



平成15年度男女共同参画フォーラム in とくしま  
～女と男(ひととひと)はばたく未来は 協働から～

日時：平成16年2月2日(月),3日(火)  
場所：ホテルクレメント徳島  
内容：第2分科会 「政策・方針決定過程への女性の参画」～今こそ レッツ チャレンジ～

パネルディスカッション  
コーディネーター：  
北村節子氏(チャレンジ支援ネットワーク検討会座長、読売新聞社調査研究本部主任研究員)  
パネリスト：  
立木さとみ氏(立木写真館株式会社常務取締役)  
磯田正江氏(徳島県女性協議会会長)  
玉置進氏(徳島県県民環境部男女共同参画課長)

参加者：約200名  
.....

男女共同参画フォーラム in とくしまにおいて、チャレンジ支援をテーマにした分科会を開催しました。

コーディネーターに北村節子さん(チャレンジ支援ネットワーク検討会座長、読売新聞社調査研究本部主任研究員)を迎え、3人のパネリストと参加者(約200人)が、政策・方針決定過程への女性の参画を進めるためのチャレンジ支援策について、熱心に討論を展開しました。

北村さんからは、内閣府の3つのチャレンジ支援策(上へ、横へ、再)が報告され、政策・方針決定過程への女性の参画を進めるためには、情報が得られる仕組みづくりとネットワークが課題であるとお話がありました。

参加者の声：

- 身近なところで始められる取組があることがよくわかった。
- チャレンジの機会は求めればどこにでもあると思った。

